

2024年6月25日
富士ダイス株式会社

当社取締役会の実効性評価結果の概要に関するお知らせ

当社は、東京証券取引所が定める「コーポレートガバナンス・コード」に基づき、取締役会の機能の向上を図ることを目的とし、取締役会の実効性に関する分析・評価を行いましたので、その概要をお知らせいたします。

記

1. 分析・評価の方法

当社取締役全員に対して、取締役会の実効性について、第三者機関の提供するWebプラットフォームを利用し、記名の上の段階評価及びコメントを記載する方式の質問票を配布し、回答を得ました。その回答の集計結果を基に、役員を数名のグループに分けグループ別にヒアリングを行い、取締役会において課題や今後の取り組みについて協議いたしました。

質問票における大項目は、以下のとおりです。

- ① 取締役会の役割・機能について
- ② 取締役の構成について
- ③ 取締役会の運営状況について
- ④ 取締役会の議論の状況について
- ⑤ 役員の自己評価について
- ⑥ その他

2. 分析・評価結果の概要

評価の結果、当社の取締役会の実効性については、適切に確保されているものと判断いたしました。

一方で、取締役会の実効性を更に高めていくために取り組むべき課題として、以下の事項を認識し、今後の対処すべき課題であることを確認いたしました。

【評価結果および今後の取り組み方針】

	評価結果	課題認識	2024年度 取り組み方針
① 取締役会の役割・機能について	取締役会の役割・機能は果たせており、実効性が確保されていると評価された。中期経営計画実現に向けた重点的な討議機会の拡充について改善の余地があるという意見があった。	取締役会で扱うアジェンダが多様化していることから、中長期的な戦略テーマについて重点的に討議する時間を創出するための施策を検討する必要がある。	1) 各取締役や下位の会議体等に権限の委譲を進める。 2) 中長期的な戦略テーマに関する議題を取締役会に上程する。 3) 取締役会における議論の質を向上させるために中長期的な戦略テーマについて自由な議論や意見交換を行う機会を増やす。
② 取締役会の構成について	取締役会の構成については人数、取締役の能力など概ね適切であると評価された。取締役会の多様性の確保について改善の余地があるという意見があった。	ジェンダー・国際性など取締役会の多様性確保に向けた候補者選任が必要である。また、グループ内におけるさまざまな階層での専門性、国際性の育成、女性活躍推進をはじめとする多様性の基盤づくりが必要である。	1) 会社の成長に必要なとされる経験と専門性をスキル・マトリックスで整理し、多様性を意識した候補者を選任する。 2) 2024年6月開催の株主総会で女性社外取締役を選任した。
③④ 取締役会の運営・議論の状況について	取締役会の開催頻度や審議時間、活発な議論の場の醸成など概ね適切に運営、議論されていると評価された。資料の配信タイミングの早期化、簡潔明瞭化について改善の余地があるという意見があった。	議題の論点がより明確に把握できる資料構成への刷新、資料配布の早期化を図る必要がある。	取締役会運営のDX化や人員増員による取締役会事務局の機能の充実を図り、資料構成の見直しや起案部門との連携を強化する。
⑤⑥ 役員 の自己評価、その他	実効性評価のアンケート内容は十分な内容を網羅していると評価を受けた。役員向けトレーニングについて改善の余地があるという意見があった。	スキル・マトリックスをもとに取締役個々のスキルアップに取り組む必要がある。	外部セミナーの活用や社内重要会議の統括責任者を任せるなど、取締役一人ひとりに適合したトレーニングメニューの提供をする。

3. 今後の対応

『① 取締役会の役割・機能』に関する取締役会の権限の委譲、中長期的な戦略テーマに関する議題の上程と議論の機会の創出については、将来にわたる当社の方向性や戦略を示すものとして極めて重要なものであるため、取締役会で報告された内容について、今後も継続的に審議を深めていくべきとされました。

また、『② 取締役の構成について』に関するスキル・マトリックスの整理、多様性を意識した候補者の選任についても、経営の重要な課題として議論する機会を増やし、持続的な成長と企業価値の向上に努めてまいります。

以上、当社取締役会は、評価結果によって浮かび上がった課題や各取締役からの提言・意見を踏まえ、より実効性の高い取締役会の実現に向けて様々な取組みを実施してまいります。

当社は、取締役会の更なる機能向上を図るべく、今後も年1回、継続的に取締役会の実効性評価を行ってまいります。

以 上